

平成20年度教育方針

柏崎市教育委員会

はじめに

昨年7月16日の未曾有^{みそろう}の大震災は、校地・校舎、社会教育・体育施設等にも甚大な被害をもたらしました。現在懸命に復旧に努めています。市民の皆様には何かと不自由をおかけし、ご苦勞の多いこととは存じますが、何とぞご理解・ご協力をくださいますようお願い申し上げます。今年度中には、すべての施設設備の完全復旧を目指して参ります。

震災は施設面だけではなく、市民とりわけ子どもたちの心に大きな傷跡を残しました。子どもたちの心のケアは長い時間を要しますが、関係機関と連携を図りながら、着実な取り組みを進めます。そのため、引き続き県からの教育復興加配教員の支援をいただき、学級担任が子どもとかかわる時間を確保するよう努めます。

一方で、柏崎の次代を担う子どもたちは、懸命に震災に立ち向かいました。特に、避難所生活の中で自分のやれることを自ら進んで行ったり、ボランティア活動などで思いやりのある行動をとったりする姿は、多くの市民から高い評価をいただきました。

昨年4月実施された全国学習状況調査のうち、児童生徒向け質問紙調査の結果を見ると、「自分にはよいところがある」、「人の役に立つ人間になりたい」、「人が困っているときは進んで助けている」、「友だちとの約束を守っている」など、自己肯定感や規範意識を問う多くの設問において、当市の子どもたちの反応は大変好感の持てるものでした。今後も施策に工夫を凝らし、子ども^この持つ好ましい意欲や態度を伸ばすよう努めます。

1 学校教育実践上の課題と施策

～地域に信頼される特色ある学校づくりを目指して～

様々な面で急激に変化する現代社会にあって、学校の果たす役割はますます重要となっています。教育委員会では、子どもたちはもちろん、保護者や地域住民にとっても魅力があり、信頼を寄せることができる学校づくりを、今年度も求めていきます。「地域に信頼される特色ある学校づくり」を進めることにより、

子どもたちが安心感を抱き、安全な学校生活を送っている

子どもたちが学ぶ意欲をもって、確かな学力を身に付けようとしている

子どもたちが豊かな心を持ち、健やかな体を育てている

といった姿として現れてきます。

この実現に向けて、

子どもたちや保護者、地域住民による評価を学校づくりに生かすこと

「柏崎の教育3・3・3運動」を家庭や地域と連携して推進すること

などに努め、学校、保護者、地域、関係機関等とより一層の連携を進めることが大切です。学校評議員会だけでなく、PTAやコミュニティセンターなど、様々な機会や場で教育活動や学校の運営に関する意見を聴取するよう、学校に働きかけていきます。また、「柏崎の教育3・3・3運動」は、社会教育での位置付けによって充実度を高める必要があることから、庁内関係課との協働を進めます。

こうしたことに加えて、

教職員一人ひとりが自ら研さんに努め、人間性豊かで、子どもや保護者、地域にとって魅力的で信頼される教職員であること

が何よりも重要です。定期的な学校訪問指導の場はもちろんのこと、学校教育研究会、教育センター研修講座、中学校区教員研修など、あらゆる機会や場を生かして指導していきます。

以上の課題の解決に当たるため、次の具体策を展開します。

安全・安心を確保するため、小学校2年生を対象としたC A Pワークショップ

○地域ぐるみで子どもを守るため、スクールガードリーダーによる連携推進

○きめ細かな学習指導、生徒指導の充実を図るため、指導補助員の採用

○英語教育及び国際理解教育を推進するため、外国語指導助手（A L T）の採用

○児童生徒及び教職員の情報機器活用能力向上のため、教育情報推進事業

○豊かな心を醸成するため、柏崎の教育3・3・3運動の推進

○児童生徒の心のケア等に対応するため、教育相談の充実と拡大

○特別な支援を要する児童の適正就学のため、特別支援学級介助員の採用

○児童生徒の緊急時に対応するため、全学校に自動体外式除細動器（A E D）を設置

2 柏崎市立教育センター運営の重点

～新しい教育 柏崎からの発信～

若葉町にある教育センターでは、学校教育の課題解決や地域・保

護者の期待や要請に^{こた}へる相談・指導・支援に関する事業を充実します。特に、教職員研修と教育相談を事業運営の両輪として事業を推進し、柏崎の教育の質を高めていきます。

教職員研修講座に対する意識を高め、研修講座の内容・方法を工夫します

現在の教育課題に的確に対応できる教職員の資質・指導力を高めるため、研修への主体的参加を一層促すとともに、より効果的な研修ができるよう受講しやすい環境を整備します。また、学校教育研究会と実質的な連携をした研究体制を確立し、現場に密着した研修を進めます。

教育相談体制の充実を図り、児童生徒の健全な成長を促します

児童生徒の悩みや問題行動の予防と解決を目指して、ケースワークを重点に置いた教育相談体制をつくります。カウンセリングルーム、ふれあいルーム（適応指導教室）、学校訪問相談員や家庭訪問相談員が、一つの事例に対して連携しながら、必要な場面でそれぞれの専門性を発揮して、全体的解決を図ります。

教育の情報化をより推進します

教育ネットワークの整備と活用を進め、教育センター事業の理解と協力を得ながら学校現場での利活用の促進を図るとともに、教育に関する新しい情報を発信します。

○教職員研修事業（教職員の資質及び指導力の向上を図るため、専門研修を実施）

○教育情報支援事業（教育情報支援システムを運用し、小中学校の教育情報化、児童生徒・教職員のコンピュータ活用能力・技術力や情報ネットモラルの向上を推進）

○教育相談事業（児童生徒の発達・対人関係の悩みの相談や指導、不登校や発達障害等の心の不調を抱えた児童生徒の支援のため、臨床心理士・相談員等による電話相談・カウンセリング・訪問指導を実施）

3 学校教育環境の整備と食育の推進

～より良い教育環境を目指して～

中越沖地震で延期しておりました学区等審議会を改めて設置し、より良い教育環境を整えるため、学校の通学区域の再編成及び学校の再配置などについて、全市的な観点から見直しを行います。

枇杷島小学校の改築について、今年度は実施設計を行い、平成21年度からの本格的な建設工事に備えます。

第二中学校は改築工事に引き続いて、旧校舎及び屋内体育館跡地にグラウンドを整備します。

災害時に避難所として指定されている小中学校施設は、耐震診断未実施の施設について、年次計画により、耐震診断及び補強設計を実施し、耐震工事に備えます。

中央地区学校給食共同調理場の老朽化に対応し、2箇所分散改築するため、1箇所目の枇杷島地区学校給食共同調理場の改築工事に着手します。また、2箇所目の新たな中央地区学校給食共同調理場の設計等を実施します。

高柳地区学校給食共同調理場は老朽化が著しいため、新しい学校給食衛生管理の基準に基づく改修工事を実施します。

第三次行政改革大綱に基づいて、二田小、内郷小、石地小及び西山中学校の学校給食業務の民間委託を新たに導入します。

～ 食べ物が育てる心 はぐくむ体 ～

学校給食の主な目的が、従来の栄養改善から食育に転換するための法律改正が予定されています。朝食を毎日しっかり食べる、からだを思い切り使って活動する、夜型生活をしないなどを重点とする「柏崎市児童生徒の食育プラン」に基づいて、家庭や地域と連携し、「食育フォーラム」などを活用して食育を推進します。

4 埋蔵文化財の保護

埋蔵文化財保護事業は、南条遺跡群（県営ほ場整備事業用地）及び坂田遺跡（市道杉本線道路改良工事）の本発掘調査を行います。

軽井川南遺跡群や剣野B遺跡などから発見された遺構や出土品について、市民への成果還元を目的に、地域の歴史資料として活用できるように整理業務を行い、併せて調査報告書に必要なデータの分析等を行います。

5 生涯学習の推進・体育スポーツの振興

～ 学びの成果が生きる地域づくり 人づくり～

市民一人ひとりが、その生涯にわたって、あらゆる機会にあらゆる場所において、学習することができ、その成果を適切に生かしながら人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう支援します。

個人的な学習課題の追求だけでなく、社会が要請している学習課題にも市民一人ひとりの関心が高まるよう努めます。

働く若者や働く意欲を持った若者の仲間づくりや心のケア、健康福祉の増進を図り、若者が柏崎への愛着を高められるよう努めます。

ヤングカルチャー開設事業 勤労青少年相談事業 潮

風マラソン

広く市民が、幅広い知識や技能を身に付けることにより、学ぶ喜び・楽しみ・生きがいを発見し、学習成果が地域社会に生きるよう公民館事業を進めます。

市民大学 マナビィステージ 寿大学 24公民館
分館の生涯学習学級 高柳町公民館事業 西山町公民館
事業（合併記念演劇公演）

市民の学ぶ機会・発表の場を少しでも確保するため、市民プラザ（学習プラザ）に人工排せつ装置洗浄トイレを設置し、安心して利用できるよう改修します。

子どもたちが、社会規範を身に付け、豊かな心を持って、自ら考え自ら行動できるよう、親や地域の大人の意図的な実践行動が大切です。「大人が変われば子どもも変わる」を合い言葉に、柏崎市小中学校PTA連合会と連携して、地域の教育力の向上に努めます。

地域で^{はぐく}む子ども育成事業

子どもたちの放課後の居場所を提供し、家庭や学校とは異なる活動を通して、生活リズムの改善や対人関係能力の向上を図りながら、子どもの「自尊感情」を高めるよう努めます。

放課後子ども教室推進事業

家庭や地域での大人と子どものかかわり方を見直す機会を提供するとともに、子どもの生き生きとした活動の裾野^{すそ}を広げるため、「柏崎の教育3・3・3運動」を進めます。学校と連携し、地域の公民館やコミュニティセンターの取り組みを進めます。

家庭教育学級事業

東村山市と柏崎市の小学生が、柏崎の自然を舞台に体験活動を通

して交流することにより、子ども同士の友好・親善を深めながら、たくましく行動しようとする態度を養うとともに、両市の交流を更に深めます。

なぎさ体験交流事業

～スポーツを通じた地域活力の向上～

健康で心豊かな生涯を送ることは、市民一人ひとりの願いであり、それは自らの実践を通して得られるものです。健康に関する学習や生涯スポーツ活動の機会の充実を図るとともに、スポーツを通じた交流により地域の活力を高め、体育施設の活用を図りながら市民の健康づくりを進めます。また、少子化の影響による団体スポーツや学校運動部活動の衰退、子どもの体力低下問題など、様々な問題に対応するため、行政・柏崎市体育協会・体育施設指定管理者の三者が連携・協働して取り組みます。

市民スポーツ大会 学校開放事業 指導者養成 団体育成事業

競技スポーツを活性化するため、指導者の育成や競技力の向上を図るとともに、柏崎市体育協会の主体的で自立した活動体制の確立に向け支援をします。

トキめき新潟国体に向けた選手強化事業や優秀指導者招聘事業^{しょうへい}などを実施し、指導者の資質向上を図るとともに、地域の競技力の向上を目指します。

震災からの復興をアピールする格好の場となるよう、体育施設を計画的に整備し、市民総参加による柏崎らしい国体の開催を目指します。

6 読書活動の推進

～読書で心豊かな生活を～

中越沖地震では、大人も子どもも、心に大きな傷を負いました。少しずつ元気を回復し、日常の生活を取り戻しつつある方も多くなってきました。市民の心を癒し、そして奮い立とうとする力が得られる場所の一つが図書館です。また、日々の暮らしの中で生じるいろいろな問題について、自己解決する知識を得る手段として、図書館が役立っています。地震後、図書館への来館者は昨年度同時期（9月～1月）に比較し73%、また貸出点数でも91%の利用状況となっています。市民の皆様が早く元の安定した生活に戻られ、図書館を大いに活用してくださることを願っています。

昨年4月に行われた全国学習状況調査の児童生徒向け質問紙調査の結果では、学校での読書時間が伸びる傾向にあるものの、当柏崎地区の子どもたちの家庭で読書する時間数は、国・県平均に比較し下回っていることが分かりました。

図書館としては、学校との連携を更に深めるため、学校図書館研究部職員研修会等へ講師を派遣するとともに、各学校の実情把握を進めながら学校図書室への助言や授業での調べ学習に対する支援を行います。そのほか、読み聞かせ・ブックトークの出前サービス、学校が行う読み聞かせのボランティアの養成講座、貸出文庫・移動図書館の充実などを通じて、子どもたちの読書習慣づけや読書時間の向上に努めます。

7 柏崎の教育3・3・3運動の定着を目指して

～学校・家庭・地域で 大人も一緒に取り組もう～

例示された27の項目の中から、目当てを決めて取り組む「柏崎の教育3・3・3運動」は、平成19年度から学校・家庭・地域がより一層一体感を持って取り組み、運動の定着を図るよう努めることとしました。計画的な取り組みが本格始動しようという段階で中越沖地震に遭遇しました。各学校及び各地域でこの災いをむしろ実践の場としてとらえ、3・3・3・運動の積極的な展開がなされたことは、これまでの運動の積み上げの成果だと確信するものです。

今年度は、これまでの取組の反省と冒頭に述べました全国調査の結果を加味し、27項目をより取り組みやすいものに刷新しました。特に柏崎全体で強調したい項目は、以下のものです。

読書の量を増やそう(実践) ・家でも読書をしよう

しっかり学び、考えを深めよう(実践) ・予習・復習は毎日やろう

生活・社会体験を増やそう(体験) ・進んでお手伝いをしよう

健康なからだをつくろう(創造) ・規則正しい生活と食事をしよう

早寝・早起き・朝ごはん

この改訂版ポスターを、子どもがいる全家庭と学校・コミュニティセンター・公民館など公共機関に配布・掲示するとともに、柏崎市PTA連合会・青少年健全育成市民会議等と協働して実効をあげてまいります。

おわりに

繰り返しになりますが、冒頭の全国調査では、約100の設問の多くで当市は国・県の数値を共に上回っていますが、「読書の量」、

「家庭での学習習慣」、「家の手伝い」、「メディアとのかかわり方」といった点でポイントが落ちていることも事実です。これらはいずれも親として教職員として、そして市民として日常的に「気になる、大いに気になる」ことです。したがって、平成14年度以来、「柏崎の教育3・3・3運動」で当然のごとく取り上げてきたわけであり、今後も意図的な取組として、市民総ぐるみで、親も子も一緒になって、運動を進めていくべきものです。

「親が変われば子どもも変わる」、「大人が心がければ子どもも気付き」、「学校が変われば子どもも変わる」

教育委員会は、子どもたちの健やかな成長を求め、柏崎ならではの、現場に密着した教育を進めます。